

佳賓好主（佐藤一斎）

月訪梅花爲好主 梅邀月影作佳賓
佳賓好主兩雙絶 管領黄昏一刻春

月は 梅花を 訪うて 好主と 為し

解説 春の夕の梅と月を詠ったもの。

梅は 月影を 邀えて 佳賓と 作す

語釈 ※月影Ⅱ月の光。※双絶Ⅱ二つのすぐれたもの。すぐれた風景。
※管領Ⅱ支配する。自分のものとする事。※黄昏Ⅱたそがれ。夕方
のうす暗い時刻。

佳賓 好主 両つながら 双絶

通釈 月は、満開の梅花を訪ねて来て、好い主人であるとし、梅は、

管領す 黄昏 一刻の 春

月を迎えてよい賓客であるとしている。明るく照らし出す月影、芳香
を漂わせる梅の花とは、好一对のすぐれた風景である。かくしてこの
月と梅花は、春のたそがれどきの一刻を、わがものとしているのであ
る。